

生涯現役！まだまだ元気！



▲地域の運動会にはこんなにたくさんの元気なお年寄りが集まりました（老人クラブ大運動会）

核家族化、少子高齢化が進行し、地域全体で子育てや高齢者の暮らしを支えることが求められています。高齢者が明るく元気に生活するためには、地域とのふれあいが重要な役割を果たすのではないのでしょうか？

市全体は15・8%
南区では18・5%

この数字は、今年七月一日現在の人口（住民基本台帳人口）に占める六十五歳以上の人口の割合（高齢化率）です。

南区は全市十区中でその割合が最も高く、区内の総人口十五万四千八百八十二人のうち、二万八千六百五十九人が高齢者です。

そしてこの中には、元気に、活発に、楽しく活動している高齢者の方々がたくさんいます。

ご存知ですか？ ふれあい広場交流会

「この魚の名前はなーに？」「こんなきれいな色の魚がいるといいな」。魚の形をした紙に塗り絵をしている子供たちの素朴な疑問や感想に、お店屋さん役の地域の高齢者たちは目を細めています。

この行事は、簾舞児童会館を会場



▲手作りおもちゃうれしいな（簾舞フルーツバスケット）

に行われているフルーツバスケット（ふれあい広場世代間交流会）。同じ地域に住む各世代の人々が、共にふれあい、楽しいひとときを過ごすことができます。子供にとって楽しいの場、子育て中の母親にとって知識の泉となるばかりではなく、高齢者が生きがいを感じる場として重要になってきています。

広いホールには、ゲームやダンスなどで交流を深め、楽しそうな笑い

声が響いています。

「孫と同じくらいの子供たちと遊んでいると、自然に笑顔になります。また、事前の準備作業で集まり、みんなでおもちゃなどを作っている時は、ワクワクして子供に戻ったようです」と話すのは同協議会事務局長の柴田法文さん。

柴田さんは、「ここに集まる方は元気な方が多いですが、子供たちから元気をもらって帰る方もたくさんいます。一度来た人は、口コミで伝えてくれるから参加者は増えていきます。今後の活動の広がりが楽しみです」とこやかに話します。

さあ気軽に 出掛けよう！

八月に各地区で開催された夏祭り。藤野地区町内会連合会などが主催した「藤野ふるさとまつり」では、福祉バスが運行されました。

これは、外出する機会が少ない高齢者や、会場から遠い地域の方にもお祭りを楽しんでもらおうというもので、多くの利用がありました。

「これを契機に、高齢者がどんどん地域の行事に参加するようになってくれればいいですね」と話すのは、同連合会福祉部長の児玉浩さん。

児玉さんは、「まずは、地域の行